



まちとしよ

～大石田町立図書館 information～



Web OPAC
PC・スマホ版

- ◆ ☎35-3877 ◆ 公式HP <http://niji.town.oishida.yamagata.jp/library>
- ◆ 大石田町立図書館蔵書検索システム(WebOPAC)から蔵書の検索や貸出状況、新着情報の確認などができます。利用者登録をしている方は、貸出中の図書を予約することができます。詳しくは図書館にご確認ください。

- 開館時間 午前9時～午後7時(日曜日・祝日は午前9時～午後5時)
- 休館日 毎週木曜日(祝日の場合翌日) 《10月の休館日》1日(木)、8日(木)、15日(木)、22日(木)、29日(木)

読書週間標語 10月27日-11月9日
「静かだけど、冒険中。」

参加費無料 秋の特別企画
Night Library
ナイトライブラリー
夜のとしよかんへようこそ

よる 7じ から 9じ まで
一夜のみ 10/24 (土) ～図書館で過ごす とくべつな夜～

おはなし会 ※10/24のみ 定員15名程度 ○19:10～(約30分) ○おはなしコーナーにてぬいぐるみと一緒に参加OK! ハロウィンのお話もあるよ	ぬいぐるみのおとまり会 ※10/24のみ 事前申込制 先着5名 ぬいぐるみ達が図書館におとまりする様子を写真にとってプレゼント☆ ○受付(15:00～20:00) ○お迎え(翌日から一週間以内)
---	--

雑誌・図書 リサイクル市

保存期間切れの雑誌や除籍した図書をお譲りします。持ち帰り用の袋をお持ちください。
※なくなり次第終了

10/2 (金) ▶ 11/30 (月)

雑誌タイトル: ダ・ヴィンチ、BRUTUS、暮しの手帖、リンネル、文藝春秋、MOE、Kodomoe、NHKすてきにハンドメイド、NHKきょうの料理、レタスクラブ、NHKきょうの健康、NHK趣味の園芸やさいの時間、現代農業、関東東北じゃらん、山と溪谷、BE-PAL、鉄道ジャーナル、driver、ちゃお、別冊マーガレット、週刊ダイヤモンド、Newton、ZERO☆23、子供の科学 等

今月は、どの 本 を読む?

新着本から話題の本・おすすめ本を紹介します!



『それでも必死に、恋をしていた』
(此見 えこ // 著 主婦と生活社)

ずっと大事に抱きしめていた気持ちを、ようやく伝えられたことがうれしくて、それと同時に目の前に恋の終わりが現れて…。『私の好きなひと』をはじめ、1話6ページの超短編恋愛ストーリーを全25話収録する。



『おい点P、動くんじゃねえ!』
ニガテ民のための算数と数学の本
(とけいまわり // 著 晶文社)

ニガテ総選挙No.1の速さ問題、脳が拒絶するつるかめ算や利益算、常になんとなく不安な文章問題…。絶妙に納得できないテーマを厳選し、算数・数学に不満たらたらへのケンジと、数学好きの兄貴が、対話しながらひも解く。

『読書会を魔女といっしょにやってみたら』

(濱野 京子 // 作、米田 絵理 // 絵 あかね書房)

友だちと「読書会」を始めた小学6年生の稀桜。書店も図書館もない町に「貸し出しもできる一箱書店」を作りたいと、自称「魔女」の愛沙さんに相談します。すると、大人たちの前でプレゼンをすることになって…!?



『ウマになれたらいいのにな』

(ソフィー・ブラッコール // さく、山口 文生 // やく 評論社)

もしもウマになれたら、一日中走りまわったり、妹を背中に乗せてあげたりしたいな。水泳大会では、きつと大活躍して…。大好きなウマになったら、こんなことがやりたい、という子どもの夢をダイナミックに描いた絵本。



※紹介文は「TRC MARC」より引用。すべて町立図書館蔵書。

虹のプラザ文化芸術プロジェクトマネージャーコラム

「大橋の記憶を残す」

vol.5

現在進めているプロジェクトの一つに、橋の架け替えによってやがて姿を消す「大橋」を絵本として残す企画があります。この企画のきっかけは、ある町民の方との何気ない会話でした(私の名前が大橋なのでその話題になったと記憶しています)。橋について話していると、「昔ここを歩いて学校へ通った」「子どもと一緒に渡った」「あの場所から見ると景色が好きだった」と、一つの橋をめぐって、それぞれに違う記憶があることに気づきました。

時間、忘れられない出来事もまた誰かに渡された瞬間に表現の種になるのではないだろうか。そこで、このコラムを読んでくださっている皆さんにお願いがあります。

あなたの「大橋」にまつわる思い出をぜひ教えてください。

大きな出来事だけでなく構いません。いつも見ていた景色、誰かとの会話、橋を渡った日のこと、子どもの頃の記憶、「こんなことが絵本になるの?」と思うような何気ない話ほど聞いてみたいと思っています。

一人ひとりの人生の断片が集まり、混ざり合ったとき、この町にしかつけない物語が立ち上がるかもしれません。橋を保存することはできなくても、その橋と共に生きた人たちの記憶を残すことができます。

何気ない日常を言葉や絵にしたとき、それがどのような表現へと変わっていくのか。皆さんと一緒に作りながら、最高の一冊に育てていきたいと思います。

少しでも気になったら、虹のプラザへ一度ふらっと来てみてください。

虹のプラザ文化芸術プロジェクトマネージャー 大橋武司

町長コラム

「次世代へ虹をかける」

『ふるさとを想う』

vol.33



こんにちは! 日中はまだ汗ばむ日もありますが、朝晩はだいぶ涼しくなり、町内では稲刈りが最盛期を迎えています。一日の寒暖差が大きい時期ですので、皆さんも体調に十分お気を付けてお過ごしください。

先日、加盟67団体、会員約6万8千人を擁する「山形県人東京連合会」、通称・山形県人会の総会に出席してきました。

首都圏に暮らす大石田町出身者の交流と応援を目的に、紀文食品の創業者である保戸邦人氏を中心となり、昭和59年に設立された「首都圏大石田会」。これまで毎年、町との交流を重ねてきましたが、さらに幅広い情報交換と交流を深めようと、今年度から山形県人会へ新たに加入しました。

総会には吉村県知事をはじめ、市町村長、各地域の県人会、高校や大学の同窓会などから、640人を超える皆さんが出席されました。

会場では「県人会さあ入ってけっで、ありがござまな」「いがつた

チャー」毎年、大石田さあそば食に行ぐんだ」いつも花火観に行ぐんだ」など、たくさんの温かい声をかけていただきました。

ふるさとを離れても大石田を想い、そばを食べに来てくださり、花火を楽しむにしてください。その言葉の一つひとつに触れ、遠く離れていても、ふるさとはいつまでも心の中にあるのだと、私も胸が温かくなりました。

町外から大石田を想い応援してくださる皆さんは、町にとってかけがえのない大切な存在です。

首都圏にお住まいのご家族やご親戚、ご友人があらましたら、ぜひ「首都圏大石田会」をご紹介ください。ご紹介や加入に関する情報がありましたら、役場2階の企画情報課までご連絡いただければ幸いです。

これからも、人と人との縁を大切にしながら、ふるさと大石田を想う温かな輪を広げてまいりたいと思います。

大石田町長 庄司 中